

震災の町

— A town of the earthquake damage to rebuild —

今 駒 清 則

神戸市東灘区深江北町 1-10



1995年2月17日



1997年1月19日



1995年8月10日



2001年5月26日

神戸市東灘区本庄町 1-9



1995年2月17日



1997年12月19日



1995年9月5日



1999年5月2日



1995年9月19日



2002年5月20日

神戸市東灘区本庄町1と芦屋市津知町4の市境



1995年2月17日



1997年12月19日



1995年8月10日



1998年10月28日



1995年9月5日



2002年5月20日

芦屋市平田北町 4



1995年4月4日



1997年12月19日



1996年4月8日



1998年8月13日



1997年1月19日



2001年5月26日

芦屋市清水町 1



1995年4月5日



2001年2月8日



1995年9月5日



2000年1月18日

芦屋市清水町7



1995年2月25日



2000年5月10日



1995年9月19日



2001年2月8日



1998年11月24日



2002年3月12日

芦屋市清水町 8



1995年2月25日



1997年1月28日



1995年5月5日



2001年2月8日



1996年9月8日

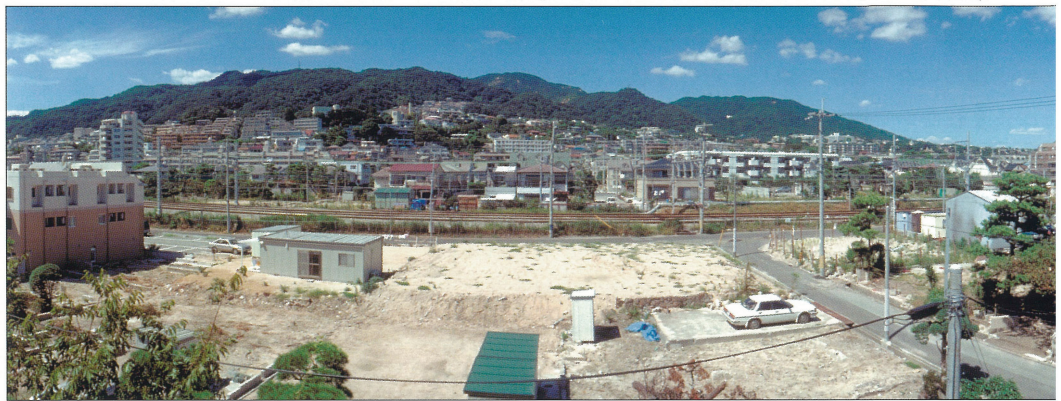


2001年6月17日

神戸市東灘区森南町 1-18



1995年2月25日



1995年9月5日



1998年11月24日



2001年6月17日

災害記録と復興定点記録

このシリーズは1995年1月17日未明におきた阪神・淡路大震災の被災地域の建物被害と、その後の復興状況を定点観測撮影し、文字情報と共にデジタルアーカイブを行っている。今までは歴史都市や繁栄する経済都市などを写真で記録してきたが、この大震災によって今まで思いもしなかった悲惨な都市を歩き見つめることになった。それは震災直後にボランティア活動が始まり、パソコン通信で「私にできること」の問いかけをしたところ「客観的な記録が必要です」と被災地からe-mailを頂いたことと、知人の安否確認に訪れた際、ある住宅の倒壊で幼い子達のいた一家が全滅し、その惨状に衝撃を受け止むに止まれない気持ちからこの記録を始めた。

激震地では多くの住宅が倒壊して、人を守るべき家屋が凶器と化していた。この現実から同規模の地震によって日本のどこにでもある私たちの「住まい」もこれと同じになることが予想され、この被害状況を記録すること、さらにその後の被災地の変遷を記録し、これを恒久的に保存することは、今を生きる写真家の私に科せられた義務であると考えたからである。

記録の対象地域

兵庫県芦屋市では西部地区と呼ばれる清水町／津知町／前田町／川西町を重点地域とし、さらにその周辺も記録している。

神戸市では芦屋市西部地区に隣接する東灘区東部の森南町1丁目／本庄町1丁目を重点地域とし、さらにその周辺。また東灘区西部の御影周辺、灘区東部の六甲道周辺、中央区三宮周辺と海岸部分の一部も記録している。

記録の対象

1. 住まいを中心とした震災被害状況
2. 現存する建物の記録（芦屋市清水町と津知町の2町で激震に耐えた76棟を全収録。）
3. 復興状況（被害状況の建物や市街地のその後の変化を同一場所で定時的に写真撮影し時間軸で記録する定点観測記録）

写真による記録

1. 正対撮影（建物などは歪み、変形が起きないようにできるだけ正対して撮影した。従って写真から被害状況の計測が可能である）
2. 広角度撮影、パノラマ撮影（水平角度82°を主に使用しているが、さらに特殊パノラマカメラで140°の撮影、またこれの写真合成により200°～360°のパノラマ写真も可能）
3. 定点記録（同一地点を時間差で同じフレームで撮影する）

文字による記録

文字情報のデータベースには次の13項目を設定した。またキーワードを作成し検索が容易になるようにした。「ファイル番号」「記録日」「撮影地点」「撮影方向」「撮影角度」「所在地」「名称」「新名称」「種別」「構造」「状況」「傾斜・倒壊方向」「備考」。

文字情報の項目記入には現地での聞き取りや、諸資料の裏付けが必要であり、現在も資料収集や情報確認を行いつつ入力を進めている。

記録の作成方法

撮影した35mmカラーリバーサルフィルムはフォトCDまたはプロフォトCDへ変換。01年からはデジタルカメラで撮影している。文字情報は調査データを「Excel」に入力。現在の記録件数は約5,500件である。

デジタルアーカイブ

記録は第三者の利用を考慮した上で複数の保存が望ましい。また退色するカラー写真は保存に適さず、これをデジタル化することで恒久的な保存が可能となる。画像と文字のデータは画像データベースを構築することで検索・表示が容易となり、この記録による質・量を考えるとデジタルメディアでの出版や公開が最適な方法である。

公開と著作権

歴史的な大災害の記録という性格からこの記録を公開し自由に役立てていただきたいと考えていたが、著作権

の管理上では種々問題があった。市販公開したCD-ROM写真集では写真や文字情報の複製利用を学術利用、災害対策への利用、その他営利でない利用には著者への「使用許諾」と「著作者表示」をすることで無償利用できるようにした。またインターネットでの本記録の公開では神戸大学附属図書館「震災文庫」から同文庫ホームページへの公開依頼があり、今後の記録も含めた全資料の提供を受諾。このシステム構築を今後行うこととなった。

画像データベース

大震災から1年間の記録はWindows版CD-ROM「今駒清則・阪神大震災記録写真集」として、第1集はCD-ROM2枚組、448枚の写真と文字情報で緊急に構成して1995年8月17日に発行。第2集はCD-ROM3枚組、1,070枚の写真と文字情報で1996年1月17日に株・バスプラスワン社から発行市販した。

これには写真を最大1536×1024画素/JPEG形式/1677万色(140°パノラマ写真は2170×880画素)で収録している。またデータの検索・表示には「FileViewer」という地図上に置いたポイントからジャンプして画像を表示できるもの、もう一つは「まいく郎」というサムネイルと文字のキーワード検索で情報を得て検索・表示、プリント出力ができる画像データベースを使用した。

なお現段階ではWindowsとMacintoshの両方で閲覧可能な画像データベース「Billet」を使用して試作的なアーカイブを行っている。

おわりに

重点としている芦屋市西部地区や神戸市東灘区東部の被災地域の復興状況は、震災復興土地区画整理事業に地区住民との合意が遅れ、この辺りでは他の被災地域より復興が大幅に遅れている。それでも森南地区では住民合意により2000年中に再建が大きく進んだが、合意が遅れた芦屋市西部地区はそれまでほとんど復興されていなかったものの、01年になって区画整理事業が本格的に始まった。芦屋市の担当助役による収賄事件で一部遅延があった模様だが、芦屋市清水町の大部分は震災に耐えた建物や再建された建物を撤去して再び更地とし、道路の

新設・拡張、緑地・公園の新設・拡張、住宅の換地などが現在急速に行われている。それに従って再建、再再建の建物が建設され始め、大震災から大きく変化しなかったこの付近の環境や景観が一変するほどの状況を迎えている。

今回の発表は記録の中間発表に相当し、約1,000ヶ所の定点対象のごく一部である。またここでは文字情報の記載は省略した。なお塚本学院教育研究補助費をこの記録途中の98~2000年度で受けている。

1942年愛知県豊田市生まれ。写真家入江泰吉氏に師事。62年から近畿地方、韓国、中国を中心に歴史・文化・芸能などを取材、雑誌・書籍で発表。特に能楽を長年記録している。82年からCG・デジタル写真制作とデジタルアーカイブを研究。95年の阪神・淡路大震災の災害とその後を定点記録、能楽や中国美術などと共にアーカイブを行っている。主な写真集に「若狭路」「歴史の京都」「飛鳥・河内と大和」「カラー巡礼の旅」「カラー能の魅力」「能鑑賞入門」(以上淡交社)「能面」(玉川大学)「大阪城」(清文堂)「OSAKA-The City and Its People」(大阪市)「CD-ROM・今駒清則・阪神大震災記録写真集・第1集、第2集」(バスプラスワン)など。個展に「能の美」(北京・上海展)、「A Look into OSAKA」(海外展)、「ミラノ・MILANO・ミラネーゼ」(阪急百貨店)、阪神大震災関連写真展(各地)など。現在、大阪芸術大学芸術学部写真学科教授、日本写真芸術学会理事、日本写真家協会、水門会会員。